

帝政ドイツ海軍の士官用制帽です。



コックード部分自体はのちのヴァイマル・NS時代と変わらないデザインですが、コックードの上に帝冠がつくのが特徴です。  
士官用と下士官用で帽章のデザインが異なります。  
また、帝政時代では、下士官から将官に至るまで、制帽のバイザーは革製です。



ちなみに、顎紐のボタンにもしっかり錨と帝冠が刻まれており、当時のドイツ海軍が、「皇帝の海軍」であったことが強調されています。

(余談ながら、陸軍の場合は帝国付きではなく、帝国内の王国付きという扱いでした。)

写真の制帽は「兵科」に所属する士官の制帽であるため、バンドがモヘア織にて作られています。  
機関、経理と言った他の兵科はバンドの素材が異なります。